

Ceramic, Glass, and Metal Works

多摩美術大学 工芸学科

Tama Art University





Ceramic, Glass, and Metal Works

「工芸」を、多様な広がりを持ったモノ作りの
姿勢を表す言葉として、私たちは捉えています。

モノを作り上げること。

それは人間が、生きるために古来より重ねてきた
本能的・知的な行為であり、豊かな暮らしのための
感動を伴う精神的行為です。

工芸学科では、素材と身体、そして思考とを連動させて
「手でモノを作る」術（すべ）を学び、その根源的な力を養います。
この力は、今日の造形手段がますます
デジタル化していく状況において、その^{いしずえ}礎としての
重要性が増しています。

学生は素材と向き合いながら、
この時代に自分が作るべきものを
仲間とともに模索し、見出していくでしょう。

作家である教員、充実した設備、そして
60年に及ぶ多摩美の工芸教育の歴史が
みなさんの学びを後押しします。







やわらかな無限の可能性

直接手で触って自由にかたちを作ることができる粘土。ザバッとかけたり、霧を吹いたり、絵を描くように筆で施すことのできる釉薬。粘土も釉薬も自分でブレンドしてカスタマイズすれば種類は無限。焼成では温度や窯の中の酸素量によって焼き上がりをコントロールすることもできる。そんな柔軟で、豊かな可能性を持つやきもの＝「陶」という素材と身体（技術）、そして思考（コンセプト）の連関を基に、アートからデザインにまたがるものづくりの力を鍛え、創造性を育みます。

主な設備

電気窯（6-50kw）・ガス窯（1.0m³／1.5m³）
移動式楽焼ガス窯・パワーリフター
ホイストクレーン（1.5t）
常圧式土練機・循環式土練機
コンプレッサー・釉薬集塵装置
攪拌機・乾湿両用掃除機
電動ロクロ

ポットミル機
セラミック3Dプリンター
◎窯にプログラムコントローラー設置





ガラスはあやつれる？

重力・遠心力・表面張力・圧力などの力を理解そして利用しながら熱く柔らかいガラスを操るホットワーク。同じく重力・表面張力などを利用し、電気炉の中に何らかの仕掛けを施してガラスをくっつけたり形を変えたりするキルンワーク。比較的ダイレクトに手で触れながら様々な道具を用いて冷たく硬いガラスを切ったり削ったりするコールドワーク。ガラスの状態に応じた多様な手法と、それにより生まれるガラスならではの魅力的なフォルムや表情を学びながら、自身にとっての「ガラスで表現する」ということを見つけてほしいと思っています。

主な設備

溶解炉 200kg
グローリー
徐冷炉
電気炉 200V／100V
ハット式キルン
平盤研磨機
縦盤研磨機

ウォーターサンダー
大型ダイヤモンドソー
小割り切断機
サンドブラスト機
圧式サンドブラスト機
バーナーワーク用バーナー
(エアー／酸素)

グラヴィール機
版画用プレス機
ボール盤





金属を動かす・変化のさまを見る

金属を動かすには色々な方法があります。叩く、伸ばす、溶かす、削る、曲げる、磨く。単純で原始的な行為ですが、その過程をよく見ると、そこには刻々と変化していく金属の様子が見てとれます。これを粘り強く繰り返す事で、金属材料を、思い描く姿に転化出来る様になります。必要な道具を自分で作り、その道具で金属に伝えます。すると、ゆっくり、少しずつ、金属が動きます。そのさまを目で見て、体で感じて、自分の胸に訴えかけてくる出来事を探してください。そして、なぜ訴えかけて来るのかを考え、その感動を形にしてください。

主な設備

TIG 溶接機・MAG 溶接機
エアプラズマ切断機
ドイツ製エアハンマー
重油炉・ガス炉・コークス炉
シャーリングマシーン
コンタマシーン
当て金・木台

スピニングマシーン
鍛金設備
ガス溶接設備
彫金机





専門家の育成

大学院とは、学生が作家を目指す場所ではなく、すでに作家が学生をしているような自立したものづくりの現場です。学部で見出したテーマに向かって実制作と論理的思考の両輪で進み、自らの表現を揺るぎないものにしていきます。また、歴史や同時代の状況を踏まえながら自身の表現を社会化していくのもこの時期です。

大学院は博士前期課程（修士）2年と博士後期課程の3年からなります。高度な専門性を身につけ、生涯を通して作家や研究者の道を歩んで行くための確信を掴んでほしいと願っています。

大学院の課程／課題／活動について

制作研究

修了制作

修士論文・研究ノート

指導的機会（TA）

学外授業

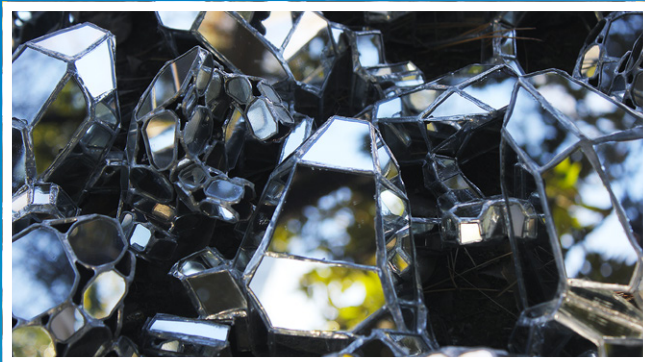
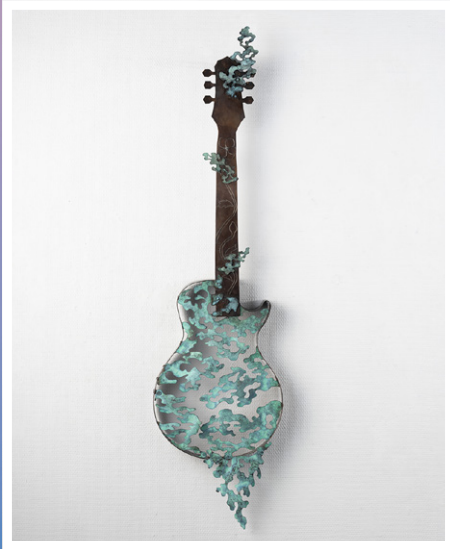
主体的授業（自らテーマを設定）

個展開催支援

学外展示

ゼミ活動（学科内外）

大学院生専用アトリエ







工芸学科の卒業生は、工芸分野以外にもクリエイティブ分野の各方面で活躍しています。

ここでは、受験生・後輩へ向けた、卒業生からのメッセージを紹介します。※卒業年順

陶 Ceramic



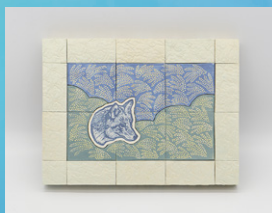
© Mitsuyuki Nakajima



前野 達郎

作家活動（陶芸家） | 陶プログラム2003年卒

学生生活の4年間は、自由に使える最後の時間です。自分のやりたい事や
って欲しい。やりたい事がわからなければ、興味のあることを何でもやって
欲しい。そうするとやりたい事がわかると思います。楽しんで素敵な時間を
過ごして下さい。



林 麻依子

作家活動（陶芸家） | 陶プログラム2012年大学院卒

好きなこと、そして嫌いなことさえ、全てが創作の糧です。一緒に学ぶ仲間は、
自分の選ばなかった可能性を見せてくれます。大学での学びを通じて、今の
自身の基盤となる“らしさ”を見つけることができました。

Ceramic 陶



宮下 サトシ

作家活動（アーティスト・陶作家） | 陶プログラム2016年卒

調子が良いときも悪いときも、作品が未熟で満足がいけないときも、自分が
いま生み出した作品を受け入れて、愛してあげてください。その愛情は時間
をかけて強く成長し、必ず返ってきます。それが作家にできる全てです。な
んちって！楽しんで頑張ってください！

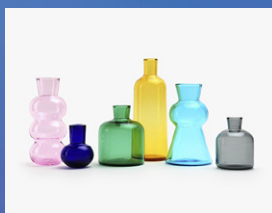
ガラス Glass



陣 めぐみ

bubun（装身具制作） | ガラスプログラム2006年卒

日々手さぐりで素材と自分とに向き合うことで、少しずつ少しずつ感覚に忠
実なものが作れるようになっていった学生時代だったように思います。興味
を持ったことはぜひとことんやってみてください。その経験が制作の礎とな
り作品の中に息づき続けるはずです。



高橋 漢・和田 朋子

TOUMEI（ガラス工房） | ガラスプログラム2009年卒

よく学び、よく遊び、たくさんの出会いと経験をすることが学生時代にとて
も大切な事だと思っています。多摩美にはいろいろな人がいて今となっては
貴重な時間を過ごしました。皆さんが良い作品を作って豊かな人生を歩める
ように願っています。

Glass ガラス

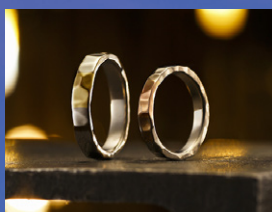


薄葉 純

株式会社俄 | ガラスプログラム2011年卒

新作ジュエリーの開発を担当しています。自分にとって「ものづくり」って
何だろう。学生時代、大いに悩んだことが、今は大きな力になっています。た
くさん手を動かし、納得する答えを探して行ってください。

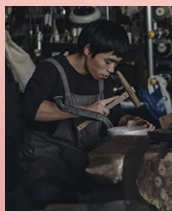
金属 Metal



長嶋 麻里子

有限会社 ICHI | 金属プログラム2011年卒

やりたい事はとことん挑戦して下さい。「自分は無理だ」や「不安だから」と
ためらい、可能性を狭めないで欲しいです。行動した上で自分をもう一度み
つめること。積み重ねがいつかの自分の力へとなっていきます。



永瀬 二郎

金工・道具・装置 作家 | 金属プログラム 2012年卒

特殊な技術や素材感を身につけながら、おもしろいと思うものを自分の手で形にできることが、ますます意義深くなっていくと思います。役に立つかどうかはその人次第ですが、工芸学科で楽しいと感じることはどんどんやったほうが得だと思っています。

加賀屋 諒

株式会社クロコアートファクトリー | 金属プログラム 2014年卒

学生時代に得た「知識・技術・人脈」は、将来まで自分の支えとなります。学科や専攻にとらわれすぎず、新しい事を吸収することが重要です。そのためには金属という応用性の高い素材の加工を学び、アドバンテージを得られることは、とても有意義だと思います。

秋本 風香

二戸市地域おこし協力隊 うるしびと | 金属プログラム 2020年卒

岩手県二戸市浄法寺町で地域おこし協力隊として漆掻き職人をやっています。多摩美程の工房を使える機会は卒業後そうそう無いと思います。学生の内にいっぱい入り浸って、工具も工房も先生も使い倒しちゃいましょう。

主な進路

作家活動	陶作家 ガラス作家 金属作家 画家・美術家 ジュエリーデザイナー 各種デザイナー
公務員・財団	(株)かわさき市民活動センター 三田こども文化センター 富山市役所 北海道紋別市役所
教育	長岡造形大学 芸術工芸高等専修学校 多摩美術大学工芸学科研究室 屋久島おおぞら高等学校 筑波大学附属高等学校
進学・留学	多摩美術大学大学院博士前期修士課程 多摩美術大学大学院博士後期課程 東京藝術大学大学院 金沢美術工芸大学大学院 筑波大学大学院 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ 茨城県立笠間陶芸大学校 富山ガラス造形研究所 東京ガラス工芸研究所 国立台湾大学 HAL東京 代々木アニメーション学院

主な就職先

広告・映像・メディア	(株)日本テレビアート (株)フジテレビジョン (株)博報堂プロダクツ (株)ダダビ
玩具・ゲーム・キャラクター	コナミデジタルエンタテインメント セガ バンダイサポート (株)コーエーテクモホールディングス サンエックス(株) (株)スクエアエニックス (株)サンリオ (株)タカラトミー
その他デザイン	イー・エム・デザイン(株) (株)クレオ
アパレル	(株)ヨーガンレール (株)シーズ・プランニング (株)アルページュ (株)サンゲツ (株)丸昭 (株)土屋鞆製造所
画廊	ギャラリーやまほん (株)陶額堂
工房	あづみ野ガラス工房 (株)猿江ガラス 軽井沢ガラス工房 DEPU(株) 一東輪陶芸教室 菅原工芸硝子(株)
製造業	HARIO(株) 自家窯陶郷ガラス工房 三協フロンテア(株) (株)鳥居製缶 興亜硝子(株) (株)ミキモト装身具 (株)エフ・ディ・シー・プロダクツ (株)ヴァンドームヤマダ (株)大淵銀器 (株)フィアロコーポレーション イケア・ジャパン(株) (株)パイロットコーポレーション (株)ケイ・ウノ 日本山村硝子(株) セイコークロック(株)
舞台美術ディスプレイ	(株)シミズオクト 日本ステージ(株) (株)角川大映スタジオ 四季(株) (株)テレビ東京アート (株)トーガン
小売・サービス	日本通運(株) (美術品事業部) ヤマト運輸(株) (美術品輸送) (株)まんだらけ コーナン商事(株) (株)赤ちゃん本舗 (株)世界堂 (株)良品計画 (株)ハンズ (株)中川政七商店

陶 Ceramic



尹 熙倉 教授・美術家

1985年多摩美術大学大学院修了。1995年文化庁芸術家在外研修でイギリスに一年間滞在後、翌年再渡英、レンガ工場で作品を制作。在学中より美術家として、美術館、画廊などで「陶・存在・空間」を主題に立体・平面作品の発表を重ねる。近年は建築空間への作品設置計画に多数参加。「陶で作る力。発信する力。生きる力。」

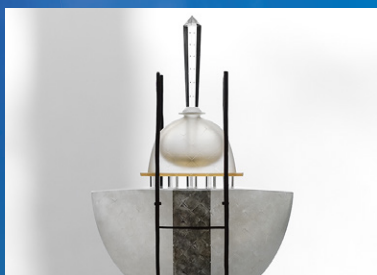
Ceramic 陶



塩谷 良太 准教授・造形作家

多摩美術大学工芸学科陶プログラムで「やきもの」を経験して以来、手でものをづくり、考えることで社会と関わってきました。身体を介する造形体験は、あなたに独自の視点で世界を捉える力を与えてくれることでしょう。2011年度文化庁芸術家在外研修員としてイタリアで活動。既存の枠にとどまらない表現を試みている。

ガラス Glass



馬越 寿 教授・ガラス作家

1992年多摩美術大学クラフトデザイン専修（ガラス）卒業。在学中より、宙吹きにより造られたガラスを様々な手段を用いて切削し時には着色を施すことにより、「透明であること」と「表面があること」との両方あることを目指し、按配の追求に取り組む。作り手がどんなアプローチをするかによって様々な表情を魅せてくれるのがガラスの魅力と思っています。

Glass ガラス



行武 治美 教授・ガラス造形作家

多摩美術大学立体デザイン科ガラス専攻卒業、米国Rhode Island School of Design大学院修了。2006年文化庁在外研修で米国のガラスデザイン設計会社及び構造設計会社にて研修。国内外の国際芸術祭へ出品。「工芸」の枠にとらわれない、ガラスという素材の持つ魅力を引き出し、既存の建築空間を容れさせる空間造形を手がける。

金属 Metal



手銭 吾郎 教授・鍛金作家

1994年東京藝術大学大学院鍛金修了。同研究室助手～講師として勤務する中、篋絞り技法と出会う。2006年文化庁芸術家在外研修で英国に1年間滞在。金属工芸における様々な地域・文化・素材（金属）・造形・技法が人を繋げている事にとても魅力を感じています。

Metal 金属



写真：斎城卓

留守 玲 准教授・金属造形家

素材に起きていることを自分なりに解釈しようとする中で、発見の喜びを知りました。この工芸体験は、今も身の回りの様々な事柄にあたる際の勇気に繋がっています。1976年宮城県生まれ。2002年多摩美術大学大学院修了。鉄溶接を主体とした作品を個展等で発表。自身の溶接観、さび観を提示。

客員教授 [五十音順]



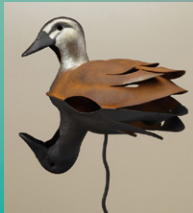
唐澤 昌宏
国立工芸館 館長



関井 一夫
鍛金作家



野田 収
ガラス作家
新島ガラスアート
センター館長



藤田 政利
鍛金造形家



Rupert Faulkner
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館名誉フェロー
元日本美術担当上席学芸

非常勤講師 [五十音順]



糸賀 英恵
金工作家



内田 望
金属造形作家



大谷 友花
アーティスト
デザイナー



川越 一日
アートディレクター
グラフィックデザイナー



木越 あい
ガラス作家



小林 淳一郎
金属造形作家



佐々木 史恵
ジュエリー作家



佐々木 類
ガラス作家



佐藤 典克
陶芸家



澤田 将哉
アーティスト
エドゥケーター



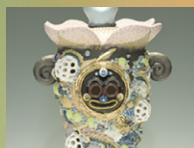
鈴木 仁子
陶芸
ジュエリー作家



田中 雅樹
ガラス作家



田村 悠
ガラス作家



花塚 愛
陶作家



林 茂樹
陶造形作家



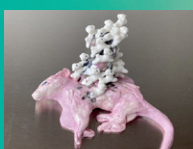
林 麻依子
陶作家



森田 春菜
陶作家



山本 麻世
美術家



湯口 萌香
美術家



横山 翔平
ガラス作家

<https://kougei.tamabi.ac.jp/>



Ceramic,
Glass, and
Metal Works
official booklet
2025

Department of Ceramic, Glass, and Metal Works, Tama Art University
2-1723 Yarimizu, Hachioji, Tokyo, JAPAN
多摩美術大学 美術学部 工芸学科
192-0394 東京都八王子市鍵水 2-1723
資料請求 : <https://www.tamabi.ac.jp/request/> (教務部入試課 TEL. 042-679-5602)
